令和６年８月２２日

令和５年度　特別の教育課程の実施状況等について

大阪府		
学　校　名	管理機関名	設置者の別
大阪教育大学附属平野小学校	国立大学法人大阪教育大学	国立

１．学校における特別の教育課程の編成の方針等に関する情報

学　校　名	特別の教育課程の編成の方針等の公表 URL
大阪教育大学附属平野小学校	https://osaka-kyoiku-hirasho.org/study/

２．学校における自己評価・学校関係者評価の結果公表に関する情報

学　校　名	自己評価結果の公表 URL
大阪教育大学附属平野小学校	https://osaka-kyoiku-hirasho.org/list/feature02/

３．特別の教育課程の実施状況に関する把握・検証結果

（１）特別の教育課程編成・実施計画に基づく教育の実施状況

- ☒ 計画通り実施できている
- ☐ 一部、計画通り実施できていない
- ☐ ほとんど計画通り実施できていない

（２）実施状況に関する特記事項

特になし

（３）保護者及び地域住民その他の関係者に対する情報提供の状況

- ☒ 実施している
- ☐ 実施していない

＜特記事項＞

各学年における未来そうぞう科の授業や発表において，保護者に参画を募り、子どもたちの未来そうぞう科の学習に関わり、その評価を受けている。

また、地域の方についても、ゲストティーチャーとして本校に招き、児童が訪問して話を聞く中で、子どもたちや教員から未来そうぞう科の取組内容や目的につ

いて説明し、これまでの学習の成果を発表している。
　さらに、例年 2 月に開催する教育研究発表会においては、教育関係者に向けて、本校の未来そうぞう科の研究成果について授業公開を行い、その成果を発信している。

３．　実施の効果及び課題

（１）特別の教育課程の編成・実施により達成を目指している目標との関係

　本校の学校教育目標「ひとりで考え、ひとと考え、最後までやりぬく子」のもとで、大切にしている「主体性」「協調性」「創造性」について、本特例により、その 3 つにおいて、態度のみではなく、「主体的実践力」「協働的実践力」「そうぞう的実践力」の３つの実践力までの育成をめざしている。昨年度はさらにこの３つの力を子どもたちや保護者、他校の先生方にもわかりやすい文言に置き換え、「探究にむかう力」「他者と協働する力」「創造する力」とした。これにより、より具体的な姿で子どもを見取ることができ、よりよい評価にもつながっている。今年度は、新たに定義した３つの力を土台として、子どもが自ら学びを創ることができる探究のサイクルを取り入れた。小学校における探究的な学習のサイクルの整理や支援の在り方などの整理を行った。また、そのサイクルの中で、これまで以上に、子ども自身が自分の学びを「生きて使える」ものであると実感できるような「学びが生きる文脈」を意識したカリキュラム編成を目指した。
　これにより,「創造する力」を発揮した結果、あるいは最後までやり抜いた結果、自分たちの学びが生活や社会に生かされるということをより実感するものとなった。また、保護者アンケートでも「未来そうぞう科」は今後の未来を生きるために必要な力を培っている」という項目において、98%の方から肯定的な反応であった。

（２）学校教育法等に示す学校教育の目標との関係

　未来そうぞう科においては、どんな状況においても、自ら考え、みんなで共に協力し、あきらめずに、よりよい未来を想像し、創造することのできる「未来をそうぞうする子ども」の育成をめざしてきた。昨年度はより具体的な姿として「探究的な学習を進める中で、社会や集団の形成者としての自覚と責任をもち、他者と協働しながらよりよい未来を創造する子ども」と再定義した。また、既存の枠組みにとらわれることなく、課題に関わる新たな概念や学びに必要な方略を見出すことのできる「創造する力」に重きをおいて取り組んでいる。未来そうぞう科の学習の中で、自らの体験を通して、人との協力の大切さや、自らの目標に向けて、自己調整を行いつつ、粘り強く学びを創り続けていくことの重要性に気付くことができている。

４．課題の改善のための取組の方向性

　昨年度は、カリキュラムの計画段階で、横の系統性だけでなく縦の系統性をエージェンシーと探究学習の切り口で見ることのできる部会を作り、できるだけ早い段階で全学年が「未来そうぞう科」の研究授業を行うことで、子どもたちの姿を基にして、カリキュラムを見直し、作り変え、「社会に開かれたカリキュラム」の中でより良い未来をそうぞうで

きる子どもたちの育成に関わる研究を進められるようにしていきたいと考えた。

そこで今年度は、年度が始まる前に、学習内容を実質陶冶と形式陶冶という側面から整理し、３つの領域に設定し直した。社会・自然・健康をテーマにどの領域も現代的な諸課題に子どもなりにアプローチできる問を立てて探究的な学習を進めていくものとした。

また，評価については、指導との一体化を目指すために、単元設定シートを作成し、どこでどのような評価を行うかを明確にするとともに、子どもたちへの計画的なフィードバックを行えるようにした。結果として、評価を学習構成に生かすことはできたものの、子どもたちへのフィードバックが、単元の終末や学期の最後となってしまうことが多く、課題が残った。今後は、今年度までの研究を生かし、研究開発指定校として新教科「未来探究科」の中で指導と一体化し、子どもがより自分の成長を感じられる評価の在り方を模索していく。